

株式会社 WOWOW プラス 番組審議会議事録 (2026 年 7 月 16 日開催分)

開催年月日： 2026 年 7 月 16 日(木) 11:00～12:00

開催場所： 株式会社 WOWOW プラス内 Space17C 会議室

出席： 番組審議員 7 名

インターローカルメディア 2 名

WOWOW プラス 6 名

出席者

〔審議員〕 青木眞弥、太田秀樹、音好宏、朱牟田眞吾、中町綾子、
原田健明、村上典史子（以上 50 音順、敬称略）

〔放送事業者〕（インターローカルメディア株式会社）

久保政史、佐藤肇

（株式会社 WOWOW プラス）

宮澤辰之、森田健介、松田健吾、植竹伸剛、

内藤友基（記録撮影）、高野佳彦（書記）

議題： (1) 2026 年 4 月～6 月の「歌謡ポップスチャンネル」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について
(2) 「歌謡ポップスチャンネル」の番組内容、編成内容に関する審議

はじめに： 事務局より、今回複数の審議員の交代があったことに伴い委員長および委員長に差支えある場合の備えとして副委員長の選任についての必要性を述べ、事務局からの提案として音好宏に委員長を、青木眞弥並びに村上典史子に副委員長を委嘱したい旨を議場に諮ったところ、審議員全員がこれに異議なく賛成した。

報告事項： 2026 年 4 月～6 月の「歌謡ポップスチャンネル」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について

株式会社 WOWOW プラス メディア戦略局長より代表的な内容等の概要説明を行った。

審議事項： 〔審議番組〕

『宮本隆治の歌謡ポップス☆一番星 ～演歌・歌謡曲情報バラエティ～』

<審議番組概要>

「歌謡ポップスチャンネル」放送 15 年目の人気看板番組が大幅リニューアル！リニューアル第 1 回のゲストには、演歌界を代表する歌手・細川たかしとその門下で活躍する杜このみ、彩青、田中あいみが出演。“細川たかし一門”が勢ぞろいし、歌唱とトークで番組を盛り上げるほか、新コーナー「プロフェッサー宮本の歌謡ポップス☆講座」もスタート。

・本番組の構成や編成内容についてのご意見を賜りたい

・クロストーク化したことによる進行のテンポ感や煩雑になってないか、など

審議内容： ■審議員意見

・細川たかしさんは「芸道 50 年」という節目でもありリニューアル 1 回目のゲストとしてふさわしく、一門の皆さんも気の置けないトークができていた。番組冒頭にこの先をハイライト的に見せることについて、期待感を煽る意味は分かるが折角の良い絵柄を先に見てしまうことで既視感が出てしまい勿体ない印象。絵面ではなく言葉で説明したり、見せ方の工夫をしたりがあってよい。新コーナーは真面目に見て自分の学びにもなり、「破天荒の意味」が細川たかしさんにきちんと収まり上手い構成だった。全体としてよくまとまっておりゲストも気分よくトークができています。

・15 年レギュラー番組を続けていること自体がまずすごい。チャンネルの「顔」「柱」として続けて欲しい。リニューアルで多少ばたばたしていたが細川さん一門 4 名の歌がそれぞれ聞けたが、今後もこのくらいしっかりと、何よりも歌を中心に置いてき

ちんと聞かせる方向で続けていって欲しい。新コーナーは宮本さんが楽しんでやっている感が強く出て視聴者が置き去りになっている印象を受けたのでこの点は演出面で工夫などを望む。

- ・思いのほか楽しく拝見した。冒頭の構成は最後まで視聴を引っ張るという意図は理解するが、見せ方については随時工夫をお願いしたい。今回は細川一門という繋がりのある方々の出演だったので構成がかっちりまとまっていたが、ゲストが変わった際にはまた企画などに苦労されるのでは。何よりこの“界限”の方たちの歌の滅茶苦茶な上手さにあらためて驚き、こういう方たちが沢山いることがもっと広まってほしい。「講座」は演者が和気あいあいとやっている感じがあって楽しく見させてもらった。今回はお題が“日本語”だったが今後手を広げられるなら企画は今後大変なのでは。全体に画面の中が楽しそう、が今回の感想。
- ・セットは照明で映える感じでスタジオの高さも上手に使い歌手の皆さんが気持ちよく歌える空間作りができていた。今回「一門」とか「一家」という少々昭和感のある、師匠が弟子を可愛がり弟子が師匠を立てる関係性が見え、その雰囲気も素敵で和気あいあい、演歌の歌手同士のコミュニケーションを見せてくれるというのも番組の魅力のひとつになる。アーティストとして一人がステージに立って滔々と歌い、その演歌が心に沁みる、という見せ方と、他方サービス精神満載でトークを交えながらという面、どちらも魅力的で、その双方を見せられる番組として期待したい。「教授コーナー」は問題が絶妙で若者に対して言いたいことの代弁でもあり自分の思い違いの矯正の側面もありで楽しめた。
- ・今回は細川さん一門を迎えてベテランから若手に歌が受け継がれている様子も伝わってきて、プロフェッサー宮本のコーナーも歌謡曲と言葉の魅力を伝える企画として有効。制作技術観点では演歌歌謡曲番組として歌をどのように視聴者に丁寧に伝えるか、歌手の言葉、音の質感、表情、間。これらを伝えるため音声バランス、カメラワーク、スイッチング、高齢の視聴者に向けテロップの大きさや色、表示時間、情報量などに配慮を。チャンネルにとってこの番組は単なる出演者紹介番組ではなく演歌歌謡曲の現在地を伝える大切な番組。リニューアルによって情報量と教養性が加わったことは評価できる。今後もベテランの魅力と若手の可能性の両方を歌唱トーク技術面も含め丁寧な作りで伝えていって欲しい。
- ・テレビ音楽バラエティ番組というタイトルにふさわしい番組。最初の遅刻ハプニングも含めて楽しく見られた。一門で楽しくやっているさま、というのが音楽専門チャンネルらしいところよかったと思う。これからも毎回一門で、というわけにはいかないうだろうが、同期とか出身が一緒とか今後も切り口がいろいろと考えられそう。敢えて注文をつけるなら、「カムイ岬」のYouTubeがすごくブレイクしていたので“さわり”だけでもみんなで見ればより盛り上がったのではないかな。
- ・過去にも何回か取り上げた番組。リニューアルをして宮本さんは非常に安定をしているのでゲストが増えてもしっかりとハンドリングができている。今回は細川たかしさんというビッグな方なのでそのエネルギーがよく伝わってきた。彼の一門と一緒にわいわいトークがされているのだが、一門であるが故にどうしても細川さんを立てる、“よいしょ”をする方向に流れていて、それを中和できるはずの相田さんが今回は引いてしまっていて勿体ない感じだった。歌は一門の方を含めて非常に上手いし、歌謡番組として見せる力がある。教授コーナーは番組全体のテンポをうまく持たせるという意味でも構成上非常にうまくいっている印象。

連絡事項： 次回番組審議会は、2026年10月15日(木)午後5時(予定)より開催。

以上